

OSNA 法		P000009			
		担当部署			
OSNA		病理			
<b>検査オーダー</b>					
患者同意に関する要求事項		該当なし			
オーダー手順	1	電子カルテ→指示②→病理組織検査→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		化学療法			
検査受付時間		8 : 45 ~ 17 : 00			
<b>検体採取・搬送・保存</b>					
患者の事前準備事項		手術、及び内視鏡、穿刺等の侵襲的検体採取では様々な準備が必要となるため、各々の担当医師、担当看護師等の指示に従う。			
検体採取の特別なタイミング		手術中			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1	リンパ節	プリンカップ	該当なし	該当なし	該当なし
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		バーコードラベルの貼られていない検体			
保管検体の保存期間		保存不可			
<b>検査結果・報告</b>					
検査室の所在地		病院棟 3 階 病理診断科			
測定時間		30 分 ~ 1 時間			

生物学的基準範囲		(-)			
臨床判断値		該当なし			
基準値				単位	該当なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
パニック値	高値	該当なし			
	低値	該当なし			
生理的変動要因		該当なし			
臨床的意義		<p>乳癌においてリンパ節転移の有無は強力な予後因子であり、リンパ節転移陽性であれば化学療法の適応対象となる。また、センチネルリンパ節での転移の有無の情報はその後の腋窩郭清適応決定の重要な因子である。OSNA 法はリンパ節の可溶化から標的遺伝子(乳癌リンパ節転移検査における最適なマーカー遺伝子 CK19mRNA)を増幅し、反応までをワンステップで行い、転移の有無を判定することができる。</p> <p>日本乳癌学会編科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン 2 外科療法 2005 年版. 金原出版 2005</p> <p>日本乳癌学会編臨床・病理乳癌取扱い規約【第 17 版】金原出版 2012</p>			